



4年 實川 隼輔くん

※筆の入り方に注意して書きました。はらい方がむずかかったです。

四年 実川隼輔

# 光



『わたしのかお』



1年 伊橋 恵莉さん

※にゆうがくしてはじめてかいたえです。じぶんのかおをかきました。



## あつまれみんなの力作



# 成長

小五

森 美沙紀



5年 森 美沙紀さん

※私は、そりやはらいに気をつけて書きました。右はらいがむずかかったです。



2年 加瀬 剛士くん

※きれいな花をたくさんさがせました。水もたっぷりあげました。



『こんな花があったら』

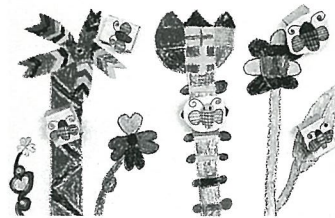


6年 江波戸 怜子さん

※はらい、とめ長さに気をつけて書きました。文字の整え方を工夫しました。

六年 江波戸 怜子

# 友情



『ちょうちょのお家』



3年 花澤めぐみさん

※わたしは、ちょうちょがすきなので、「ちょうちょのお家」を作りました。

### ひかり歌壇



伊藤 定男(尾垂)

健康を自負しながらに齡重ね  
老いて病苦を泌々と知る

自他共に健康を誇りにしていた  
作者も体調不良が現れてきた。

藤代 敏子(宮内)

喚問に言葉激しく非しりたる  
女性議員に政界の裏

国会の証人喚問時の一場面から  
政界の暗部を嘆く。

土屋 好(虫生)

咲き盛る白き辛夷の花かげに  
試歩の杖置き憩ふ一時

足運びのや、悪い作者は辛夷の  
花かげに杖を置いて一息いれる。

高梨 キヨ(長塚)

烈風に採まれ荒れしか九十九浜  
草挽く庭に潮騒高し

強風に荒れているのか、波音が  
殊更激しく響いてくる。

安田 和子(作間内)

まさをなる空と広がる葱畑  
一人じめする空気清しき

青空と空気の清しさ、一面に広  
がる葱畑、都会から移り来た作  
者の満足感が伝わる。

鈴木甲子幸

評者詠  
杉山を守り来し友伐採し  
曾孫の家を建てやるといふ